

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年2月18日～2月24日)

2020年2月28日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、天皇陛下への祝電を発出(2/23)

●ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領と電話会談(2/21)

●在ベラルーシ日本大使館による天皇誕生日祝賀レセプションの実施(2/19)

【ルカシェンコ大統領動静】

●天皇陛下への祝電(2/23)

祝電内容の要旨は以下の通り。

- ・貿易、産業協力、投資、技術の分野において二国間協力に大きな可能性がある。
- ・両国民はスポーツ、文化、観光の分野における絆の発展を通じて、両国の美しさと多様性を学ぶことができる。
- ・ミンスクと東京の友情と、多面的な相互作用により、協力が拡大、強化していくことを確信している。

(2/23 大統領公式ホームページ)

●オルロフ露アルハンゲリスク州知事との会談(2/21)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・ベラルーシは、ロシアの各地域と直接接触することに関心を持つ。ベラルーシにはロシア各地域との貿易のための工業製品、消費財が十分ある。
- ・とりわけ、建設分野は有望である。住宅建設のみならず、ベラルーシ製エレベーターの設置も可能性がある。我々は、エレベーター製造工場を近代化した。宇宙基地、飛行機、ヘリコプター、住宅に設置できる。
- ・ベラルーシは、物資輸送機械や林業用機械の製造にも大きな経験を持つ。さらに、農業の発展において、アルハンゲリスク州に経験の共有ができる。温室栽培の発展により、競争力のある野菜栽培が可能となった。ロシアと比べ、ベラルーシでは、天然ガスや石油の価格が倍であるが、ロシア市場であってもベラルーシ産のきゅうり、なす、トマトは競争力がある。
- ・泥炭関連の共同企業設立を提案したい。貴知事が合意したことを、我々は実行する。我々は、ロシアの石油、天然ガスほどではないが、泥炭事業で収入を

得ている。

・先日、プーチン露大統領が私に電話をし、石油問題について提案をした。我々はその提案について計算しているところであるが、それは意味を持っていないだろう。なぜならば、その製品はロシアのものであるから。ロシアは、公平な価格で販売することもできるし、不公平な価格で販売することもできる。なぜなら、独占者であるから。我々は、誰からもロシアから異常に多くの石油を受け取ってこなかった。ガスも同様である。

・プーチン露大統領から、2020年の関税引き下げにより、我々が、昨年(2019年)対比どれほど失うか、計算するよう提案があった。彼は、仮に、昨年(2019年)10億ドルの関税収入があったとして、関税引き下げにより7億ドルの収入となる場合、企業に対するプレミアム等から3億ドルを補償すると発言した。

・このような提案は、論争解決の道である。ロシアは、昨年と同様の価格帯を維持する用意があるということだ。少なくとも前進はしている。我々は、現在計算しているが、そこに実際の意味はない。なぜなら、それ以外の方法がロシア側から無いためだ。我々は石油の売買を国際価格で行うよう求めたが、ロシア石油企業は同意しなかった。それだけでなく、国際価格に12ドルのプレミアムを上乗せするように求めてきた。なぜならば、ベラルーシは欧州、ウクライナとの境界領域にいるためである。

・プーチン露大統領は、境界領域にいることを我々の優位性であると発言した。他方、あなた方には、石油があることが優位性である。私は首相に、上記の計算および本分野における合意締結を指示した。

・またプーチン露大統領と、エジプトにおける原子力

発電所の共同建設の可能性について協議した。エジプト市場では、ベラルーシも、ロシアも活動している。我々はエジプト大統領と友好関係にあり、ロシア大統領もシシ大統領と良好な関係にある。恐らく共同の建設となるであろうが、ロシアは、4 ブロックの原子力発電所をエジプトで建設する予定とのことである。露原子力発電所建設企業ロスアトムは、ベラルーシの建設業者に満足している。

・またベラルーシ原子力発電所の建設についても協議した。とりわけ、融資合意、義務、ベラルーシ経済、利率について議論した。

・さらに、ポスト・チュヌイ宇宙基地の建設完工についても議論した。ベラルーシの強みは、ソ連時代から残る大きな建設企業である。市場競争力維持のために、細分化されなかったことが我々を救った。ポスト・チュヌイ宇宙基地について合意できれば、そこに住宅建設、産業施設建設の合意もできる。ポスト・チュヌイ宇宙基地の建設を支援する必要がある。

(2/21 大統領公式ホームページ)

●セマシュコ駐露ベラルーシ大使と会談(2/21)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・プーチン露大統領との電話会談があり、現在我々は彼の提案について計算している。これは、石油関税の引き下げによる我々の損失であり、単純な計算である。2020 年にベラルーシに供給されるロシア産の石油量は2400万トンという前提であり、損失は約4億2〜3千万ドルである。

・プーチン露大統領は、ロシアがベラルーシに補償を与えると提案した。彼は補償することが公平であると認めた。また彼は、補償を負担するのはロシア企業であると言った。

・天然ガスについて、現在欧州の価格は110ドル／千立米である。これは我々の大臣ではなく、セチン露ロスネフチ会長が述べたものである。つまり、仮に国際価格を基準とするのであれば、ベラルーシではおよそ90ドル／千立米となるはずである。

・(欧州との間には)長期契約があるのだろう。しかし、長期契約であっても、(ガス価格は)常に石油価格と

何らかの関連はあり、仮に石油価格の下落が発生すれば、すなわち天然ガス価格の下落も起きたであろう。つまり、127ドルという価格は、今はどこにもない。

・貴方は、これを私以上によく知っているはずである。ロシア産の石油やガス、それぞれの価格に関する我々の姿勢は、明らかである。我々はこれに向けて取り組んでいく。どんな大臣が来ようと、貴方に責任がある。

●プーチン露大統領と電話会談(2/21)

両者は、二国間関係の現状について、エネルギー供給に関する問題を中心に協議した。会談の中で、プーチン露大統領は、ロシア石油会社に対する関税引き下げにより発生したベラルーシの損失を補償する用意があると発言した。また両者は、ベラルーシの原子力発電所建設や、その他有望な二国間プロジェクトについて協議した。

(2/21 大統領公式ホームページ)

●エジプトを公式訪問し、シシ・エジプト大統領、アリ・アブデル・アル・サエド・エジプト下院議長と会談。

シシ大統領との会談におけるルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・ベラルーシとエジプトは重要なパートナーであり、大きな将来性を有している。ベラルーシ、エジプトともに、二国間協力に関する合意の履行に全力を尽くしており、前進している。

・産業、軍事技術、農業、学問、人道支援の分野で共同作業がある。とりわけ、産業については、ミンスク自動車工場やミンスクトラクター工場がエジプトにて組み立て作業を行っており、今後、バブリスク農業機械、アムコドールもエジプトにて生産を開始する見込みである。安全や情報技術の分野も有望である。またベラルーシは最新の医療機材や食品を供給する用意もある。また、スエズ運河経済特区建設の参加に関心がある。

・エジプト政府の駐ベラルーシ・エジプト大使館開設に向けたイニシアチブを歓迎する。ベラルーシ政府は、様々な支援を行う。

・両国は、地域紛争の平和解決に賛同し、ハイブリッド戦争や各国を不安定化させる動きに反対する。

シシ・エジプト大統領の発言要旨は以下の通り。

・エジプトは、ベラルーシと共に、共同製品をユーラシアおよびアラブ、アフリカ市場で展開していく意志がある。アフリカにおける自由貿易特区の建設やユーラシア経済同盟とエジプトの合意署名がこれを促進するであろう。

(2/19 大統領公式ホームページ)

●セチン露国営石油企業ロスネフチ会長と会談 (2/18)

ルカシエンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・ベラルーシ・ロシア間の石油関連の問題について、ロシア最大の石油企業のトップである貴方と議論したい。

・貴方がすでに物事を把握しているのは知っているが、個々の問題について、ロスネフチを含め、ともにどう行動すべきか、何も相談しないのは、正しくないであろう。

・昨年、ロシアはベラルーシに多くもなく、少なくもなく、ベラルーシがロシアで購入した石油の半分を供給した。そして、ここ、ベラルーシで加工した。

・完全明瞭を求める。昔からお互いを知っていることもあり、ぜひ、貴方から何か助言頂きたい。私たちは、将来の協力について合意できる。

セチン会長の発言要旨は以下の通り。

・過去同様、ミンスクに招待頂き感謝。私は、貴大統領と私の間にある信頼関係を評価している。

・我々は、ベラルーシと共に取り組んでいく用意があり、建設的であるつもりである。私は、貴大統領と本テーマに関し議論できることを嬉しく思う。

(2/18 大統領公式ホームページ)

【外交】

●在ベラルーシ日本大使館による天皇誕生日祝賀レセプションの実施(2/19)

1 徳永駐ベラルーシ日本特命全権大使のスピーチに関する記事。

・日本のスポーツファンは、2021年にベラルーシとラトビアが共催するアイスホッケー世界選手権に大きな関心を持っている。本件の重要性を、徳永博基日本国大使が本日の天皇誕生日祝賀レセプションの場で指摘した。

・徳永大使は、(ベラルーシとラトビアという)2つの国で開催されるスポーツイベントにも触れた上で、ベラルーシ・日本関係の発展を総じて肯定的に評価した。本2020年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が行われ、ベラルーシも参加する。ミンスクでは来年、アイスホッケー世界選手権が開催され、日本のファンも関心を抱いている。

・同大使は、二国間の経済関係にも言及した。特に、ベラルーシから日本へのホエイ(乳清)の輸出が増加しており、同品目は日本において若者に人気の健康食品に加工されていることに注意を向けた。

・両国間では観光分野での往来も増加しており、(2018年1月からベラルーシ人を対象に日本の査証取得手続きが簡素化されて以降、)ベラルーシから日本に訪れる人が73%以上増加した。また、ベラルーシが日本人に対する(短期の)査証免除を導入したことで、日本人の来訪者の増加につながっている。同大使は、複数の大規模スポーツイベントにより、さらに人的往来が拡大することに自信を示した。

・今上天皇は2019年5月1日に即位した。同天皇の父である上皇は、第125代の天皇であり、約30年間皇位に就いていたが、昨年先例のない決断をし、高齢を理由に自ら申し出て退位した。

・日本において、天皇誕生日は国祭日となっている。

2 ダブキユナス・ベラルーシ外務次官スピーチの内容紹介を中心とした記事

・ダブキユナス外務次官は、ベラルーシの指導者が例年、当国における日本の国祭日の行事に出席していることは、同国への真摯な敬意と全面的な両国関係の発展を志向する意欲の表れであると強調し、「我々は、この点に関して、日本側からの友好的反応を期

待している。」と述べた。

・同次官は、「世界において、現代の日本は、進歩の国である同時に伝統の国であるという弁証法的連想を呼び起こしている。勤勉な日本国民は、経済の伝統的側面のみならず、最先端技術の開発とイノベーションの分野でも大きな成果を成し遂げた。」と述べ、同時に日本国民による数千年に渡る伝統の保持と歴史への経緯ある態度に注意を向けた。

・同次官はさらに、「昨年の上皇陛下の即位により、新しい令和の時代が始まった。この時代の名称は、平和と繁栄並びに国際対話と相互協力を志向する国家としての日出ずる国の特徴を、これ以上無いほど良く表している。」と指摘した。さらに、ベラルーシ国民と日本国民は、長年の友情によって結びついており、「我々は、チェルノブイリ原発事故からの復興のため日本が与えた、そして今も与え続けている支援を覚えており、評価している。『草の根』プログラムによる日本の支援は、両国の国家間のみならず草の根レベルの関係強化に寄与している」と付言した。

・さらに同次官は、9年前の福島原発における事故の知らせは、ベラルーシにおいて痛みを持って受け止められ、その不幸な出来事はさらに両国の国民の結びつきを強めたと強調した。

・その後、両国関係は特に経済分野でさらに拡大する余地があることを指摘し、さらに日本が国際スポーツイベントの開催に関する豊富な経験を有していることから、来る東京オリンピック・パラリンピック競技大会は世界規模の輝かしいイベントとなる旨述べ、本年が日本の歴史にとって記念すべき年となることを確信しているとした。

・ダブキユナス次官は、天皇陛下及び上皇陛下のご健康とご長寿を、また日本国民に対して平和と繁栄を祈念した。

(2/19 ベルタ通信)

●ルマス首相、ナティア・トウルナヴァ・ジョージア経済、持続的発展大臣と会談(2/19)

ルマス首相の発言要領は以下の通り。

・ベラルーシとの協力を通じ、快適で環境に優しい輸

送機械、高品質で安価な医薬品・食品の提供が実現し、ジョージアの社会経済的問題を解決できると確信している。

・現在、ジョージアではベラルーシ企業によるエレベーターの組み立てや医薬品包装が行われている。今後、乳製品の加工や製造企業設立に積極的な関心をもつ。

・ジョージアは、ベラルーシにとって重要かつ実績のあるパートナーである。良好な対話を維持することが重要である。

(2/21 ベラパン通信)

経済

【対外経済】

●ベラルーシ、キルギス、政府間協議を実施。

クハレフ・ベラルーシ副首相とクバトベック・ボロノフ・キルギス副首相は、政府間協議を実施。両者は、産業協力について協議した。ボロノフ副首相は、キルギスの乳製品加工に向けた両国共同農業クラスター設立の関心を確認した。ベラルーシ農業食糧省、キルギス農業・土地改良省間の農業・食品分野における協力に関する協定、コズロフ・ミンスク電子工場とキルギス企業マシュエレクトロスナブ社との協力協定が署名された。

(2/22 ベラパン通信)

●ベラビア(ベラルーシ航空)、2019 年の乗客数、2018 年対比 20%超の増加。

2019 年の同社乗客数は、同社史上初めて 400 万人を超えた。また 2020 年 1 月の乗客数は、2019 年 1 月より 30%多く、順調に推移している。

(2/20 ベラパン通信)

●2020 年 1 月、ベラルーシの鉄道貨物量、去年同期対比 23.5%増加。

2020 年 1 月、ベラルーシからのコンテナ輸出本数は、63.5 千本であった。うち、ベラルーシ経由の中国～欧州間のコンテナ本数は、28.7 千本と昨年対比、7.8%増加であった。

(2/19 ベルタ通信)

内政・治安

●新型コロナウイルスに関連し、ベラルーシへ入国する中国人の最新状況についての保健省の発表(2/24)

・これまで、空港にて 56 万 8500 人に対し衛生検疫を実施、うち、1 万 1 千人が過去 14 日間で中国に滞在歴があった。呼吸器疾患が検出されたのは、27 件。新型コロナウイルスは検知されなかった。

・325 名の中国人学生がベラルーシに入国。141 名はベラルーシ国立大学保養施設「ブリガンティン(当館注:ベラルーシ国立大学から 45 キロ離れた場所に存在する)」およびミンスク州医療リハビリセンター「ザゴリエ」にて医療監察を受けており、残り 184 名はすでに医療監察を終了している。

・中国・ベラルーシ共同産業特区「巨石」関連では、直近ベラルーシ国営バイオテクノロジー公社に中国人労働者 69 名が到着したが、到着時に新型コロナウイルスの症状はなかった。

(2/24 ベルタ通信)

●中国武漢から帰国したベラルーシ人に関するカレン保健大臣の記者会見における発言(2/20)

・武漢にいた 15 名のベラルーシ人は無事帰国した。誰にも新型コロナウイルスの兆候が検出されなかった。

・全ての関係省庁、在中国ベラルーシ大使館、ロシア政府、カザフスタン政府に対し、ベラルーシ国民の避難への支援に謝意を表明する。

・1 名、新型コロナウイルスとは関係の無い病気が検出されたが、タイムリーな診断と医療支援を提供できた。このことは、省庁間の高い相互協力を示している。

(2/20 ベルタ通信)

●ヴリン・セルビア国防大臣がベラルーシを公式訪問し、クレニン・ベラルーシ国防大臣と会談。

(2/20 ベラパン通信)

(了)

●ミンスク市人口、200 万人を突破。

国立統計局によれば、2019 年 10 月 4 日時点で、ミンスク市の人口は、2,018,281 名を記録し、200 万人を突破した。ミンスクへの移住が人口増の要因。

(2/20 ベラパン通信)